

令和3年度第2回農政審議会(令和3年11月25日)での主なご意見

<p>1 競争力ある農産物の生産</p>	<ul style="list-style-type: none">・「米に偏らない農業生産」は進めていかざるを得ない。米の需要が年10万トン減っていることを踏まえ、富山県農業の方向性を明示する時期が来ているのではないかと。・方向性を示すことは重要であるが、1億円産地づくりなどから、新しい課題に向かうのであれば、新たな数値目標を示して、国の予算の活用や県予算も使って進めるべき・園芸に注力してほしい。作るだけでなく販路の確保が必要。・たまねぎは最初の2～3年は品質の観点でかなり苦労されていた。今は、ニンジンの栽培が増えているが品質面で課題がある。水田で野菜を作ることの難しさについては、ほ場の石の問題だけでなく、米づくりのプロが野菜を作るということで技術面でも課題が多く、商品としてしっかりしたものが栽培できるよう専門家も交えて十分検討して欲しい。・飼料用米の県内流通のマッチングを進めるとあるが、現状としてどれだけの需要があるのか、それに見合った生産力があるのか。うまくマッチングできれば畜産農家も米農家も助かる。
<p>2 人と環境にやさしい農業の普及拡大</p>	<ul style="list-style-type: none">・GAP認証を取得することは良いことだが、維持することが大変であり支援が必要。・GAP認証を取得するにより有利販売ができるなどのメリットが必要であり、認知度を高める取組みを盛り込むべき。・大型機械、スマート農機が導入されてきているが、高齢の方も多いため、安全運転の指導にも力を入れるべき。
<p>3 競争力を高める技術の開発・普及</p>	<ul style="list-style-type: none">・異常気象で災害が起こる懸念があり、品種改良などで時期を変えて作るなどできないか。
<p>4 意欲ある担い手の育成と経営強化</p>	<ul style="list-style-type: none">・集積目標を90%から80%に変えるのは、現状からみて妥当。・南砺市の新規就農者は年3名で着実に増えているが、有機農業または果樹を志す人が多く米は1人だけ。離農者が多く担い手に集積が進むが、農地を引き受ける担い手も少なくこれ以上受けられないという状況。集落営農の人材確保も課題。・入善町は99%が水田、農地集積も進み、荒廃農地も少ない。富山県農業の美しい農村環境を守るには担い手の育成と経営基盤の強化が重要であり引き続き進めていきたい。・農業高校でも農業を目指している学生が少ない。現役の担い手などが講師をするなど、農業に興味をもって、農業の担い手になるように意欲を高める必要がある。・人材確保については、これまで親の跡を引き継ぐという人が多かったが、そうではない人が参入したくなるよう、農業経営をビジネスとして儲かるようにしなければならない。・野菜を作ったことがない人も農業に入ってくる時代。高校から夢をもって農業に進めるように、農業カレッジとつなぐなど、高校とさらに上の教育を他部局と連携して人材の確保に努めるべき。・若者・女性があこがれるライフスタイルとして、儲かるモデルケースを発信してはどうか・半農半Xについて、女性が経営参加しやすいのはXの部分。体力的にも農作業で不利な女性へはXの部分を見つける必要がある。・女性の役員登用については、経営の参画から徐々に力をつけてからでないと難しい。・担い手の農地集積が進んでいる地域では、規模拡大に伴い、用水や排水、畦の管理が負担となっている。草が目立つと農村の景観も害するので良い方法はないか思案していたところ、農福連携の事業所から畦草刈の練習をさせてほしいという話があった。そういった人材の斡旋などへの支援をすれば、事業所さんの仕事の確保にもなるし、農地の維持にも良いのではないかと。

- ・半農半 X、兼業農家は農業の担い手なのか農村の担い手なのかあいまい。農業の担い手だけでなく、農村・地域を支える担い手をクローズアップして欲しい。
- ・18 歳以下の人口減少が進み、高齢者、福祉の重要性も高まっている。外に出て何かしたい、学びたいという高齢者はいる。大きな農業にはならなくても、人が人を巻き込むことで次の進展につながるのではないか。

5 優良な農業生産基盤の確保

- ・暗渠排水の整備は、スピード感をもってやってほしい。畑作物を作るだけでなく、ほ場の開渠を暗渠化すると農作業が楽になるので進めてほしい。草刈りや転落防止にもなる。
- ・50 年前に基盤整備されたほ場では、作土が 20cm にも満たず 10 cm ぐらいのところは石がたくさんある。野菜を進めるには暗渠排水だけでなく水田の石の除去が必要。機械で除去できるとのことであるが、石の多いほ場で野菜を作る際に貸し出していただけるような体制があればよい。

6 食のとやまブランド戦略の強化による販路の開拓・拡大

- ・グルテンフリーの米粉パンが注目されており、お客さんの求めに合ったお米の食品加工を食品研究所や加工業者、農業者と協力して進めるなど、まだまだ研究の余地がある。時代も変化しており、ニーズにあった加工、ブランド作りが必要。
- ・農産加工について、どちらかという自分自身がやりやすい働きやすい取組みが多く、販売するときに競合相手が多くて苦勞する。農産物販売だけでなく 6 次化等についてもマーケットインの発想が必要。
- ・富富富は、笹ずしにしてもおいしい。富富富を含めて富山米の美味しさや特徴をうまく PR してほしい。

7 新鮮で安全な食の提供

- ・エシカル消費、SDGs に関心が高まっている。地産地消という買う人がいるなど、消費者にも認識があるが、GAP についてはまだあまり理解されていないので、わかりやすく発信すべき。

8 豊かで魅力ある農村の形成

- ・荒廃農地が増えて、美しい農村からかけ離れているのではないかと懸念。
- ・自治機能の強化、自然災害への対応、自然エネルギーの活用などを含めて、コミュニティの強化を進める必要があるのではないか。
- ・少子高齢化で耕作放棄地が増えている、厳しい農村ばかり。コミュニティの維持、食文化の継承、景観の美しさなどの価値観も重要で、新しい農村の形を考え出さなくては続けない。
- ・農業に関心のある方が増えており、自由な発想で農業に関わる方とのマッチングをしたらどうか。富山県の農村は、門戸が固く、受け入れる土壌づくりが必要。

9 中山間地域の活性化

- ・農村 RMO は、地域コミュニティを維持するカギになるので計画に盛り込んで欲しい。中山間地域等直接支払交付金でも加算対象としており、国の事業と連携しながら支援策を考えて欲しい。元気で魅力ある農村、誇りの持てる農村を作っていきたい。
- ・これまでの農村の良さと新しいものを融合させ横断的にチームとやまで取組んでほしい。農村 RMO という言葉は初めて聞いた。部局横断的にチームとやまで取り組んでほしい
- ・中山間地域のイノシシを含めた鳥獣害の被害が増えているが、農村だけでなく、猟友会の高齢化が進んでいるので支援が必要